

教育研究上の目的ならびに学位授与の方針	教育課程の編成方針	入学者受け入れ方針
<p>仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の能力を身につけ、所定の期間在学中、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業（DP1）建学の理念を實踐する力（理解、關心、意欲、態度、主体性）</p> <p>仏教の教義と神の精神に基づき、自分自身を自ら形作る実践研究を密着して行うことができるとする知能大学の学生としてのアイデンティティを醸成している。</p> <p>【DP1】多様な理解と尊重（知識、理解、關心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性）</p> <p>人文・社会・自然・ライフデザイン、様々な異文化・異文化に関する多角的な知識と教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。</p> <p>【DP2】情報分析力と問題解決力（技能、思考力、判断力、表現力）</p> <p>多様な情報を収集・分析し、適宜に判断・思考する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）を効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がったアイデアを出すことができる。</p> <p>【DP3】コミュニケーション能力（技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性）</p> <p>他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、それによって研究・考察した結果を、適切な方法で発表できる。</p> <p>【DP4】専門分野の知識・技能の活用力（知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性）</p> <p>体系的に修得した仏教や神の知識や英語と、実際に遭遇する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、企業等の高度の責務に貢献することができる。</p>	<p>神聖に抱かれ、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもち、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・神の教義や美観的意義、教団の歴史的背景および社会・文化に与える影響などを多角的視野から学び、広大な領域の知識を身に付け、様々な仏教の歴史や文化を把握し、それらの歴史や文化を批判的に活用し、その後の自分自身を構築する上で出来るよう教育する。また、教育課程においては、自らの身心をかえりみ、抱いた思い込みなどに気づくよう努めるとともに、決まり切った常識を脱し、自ら探求して他者の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>① 仏教の教義と神の精神について理解を深め、宗派に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。また、「後編」で、自ら宗派を探究することによって、その意義と実践方法を身につける。</p> <p>② 高校までの学びから大学の学びへの転換を促し、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「初級入門」を1年次から2年次に開講する。</p> <p>③ 専門分野の知識を身につけるために「仏教と神」を1年次から2年次に開講し、その後の学びの土壌を築く。また、仏教や神を研究し実践するための基礎的な教育を行う。</p> <p>④ 人文・社会・自然・ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるよう、科目を配置する。</p> <p>⑤ 専門教育科目では、仏教や神学上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する基礎科目、自らの独自の好奇心を追求し、これまでに修得した知識を實踐する演習科目、修得した知識を實踐する演習科目を配置し、卒業年度に学びの集大成として卒業論文を作成する。</p> <p>⑥ 豊富な知識を有する学生は、僧侶として修業してゆくべき基礎教育科目を履修することができる。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>① 1、2年次は、佛学科・仏教学科の別科は、専門研究への導入として、仏教や神の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・未知への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の学びの土壌を築く。また、仏教や神の歴史や文化を把握し、それらの歴史や文化を批判的に活用し、その後の自分自身を構築する上で出来るよう教育する。</p> <p>② 演習・実習科目、及び導入セミナー、仏教セミナーにおいては、アクティブラーニングを取り入れた教育を行う。大人数にならざるに演習を行う。可能な限りアクティブラーニングを取り入れた授業を行う。</p> <p>③ 3年次に、佛学科と仏教学科の学科分けが行われる。それぞれ学科において、さらに専門的な自分の研究課題を持つ。必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅱを継続してより深い演習Ⅲと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、専任・専任助教や准助教による課題を重視し、専任による人間的な、授業教師による専門的・指導的指導を行う。</p> <p>④ アクティブラーニング等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学習する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学生の知識の理解を深め、単位の履修を促す。</p> <p>⑤ 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、信頼性、厳格性を高める。</p> <p>⑥ 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。</p> <p>3. 評価</p> <p>① 1年次に対しては、入学前教育（対象者のみ）として、仏教や神に対する関心を深め、基礎知識を身につけてもらうために、仏教学部で指定する推薦図書の中から2冊を選び読書感想文を提出してもらい、添削・評価している。</p> <p>② 2年次に対しては、各専修科目の基礎知識（よ評価（DP4評価等））に入学前教育と同様に、取得単位数によって差額制額を設け、学生への反省と奮起を促している。</p> <p>③ 3年次に対しては、学びの集大成として卒業論文の作成を課し、学修成果の評価・測定を行っている。</p>	<p>入学者受け入れの方針「アドミッション・ポリシー」</p> <p>仏教学部では、専門分野の体系的な知識、それらを活用する技能、主体的かつ協働的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を中心に、より専門的にその分野の知識・能力を深めるため、佛学科・仏教学科に学科分けせず入学者選抜を行い、3年次以降科において、学科を選択する方式をとっている。仏教学部では、この前提において、受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な観点による多様な入学者選抜を行う。</p> <p>1. 仏教学部の求める学生像</p> <p>AP1) 仏教学部では、広い視野に立ちながら多くの関係文献を丹念に読解していく基本的な学習態度が継続的に求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日英の両言語の習得が身につけている学生を求めている。</p> <p>AP2) 仏教や神を学ぶ上で有効な能力と見られる各種認定の資格取得者、および豊富な教養を有する者を対象に「特性評価型」の入試を実施する。高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かす。また、推薦型選抜として生徒にわたって得点および仏教の修学につなげる意欲ある学生を求めている。</p> <p>AP3) 仏教学部が力をつけるべき能力を明確にする必要はない。外国語・英語において、十分な基礎能力を有し、また、ある程度の読解力、自分の意見や考えを論理的に表現できる文章力・コミュニケーション能力を有し、大学入試に備えるべき能力、コミュニケーション能力を有し、異文化人とならざるに人間関係を構築できる学生を求めている。</p> <p>AP4) 仏教学部では、あらゆる分野をカバーする教員から、仏教や神の歴史や思想を体系的に学ぶことのできるカリキュラムを設けている。また、仏教や神に関する重大な課題を有する図書や、神に関する史料を豊富に紹介する神文化歴史博物館を設けて、仏教や神に興味のある学生を受け入れる豊富な雰囲気を入。仏教や神に関心をもち、学習・研究する意欲を持つ学生を求めている。</p>

・配当年次が1つの科目は必ずその年次に履修すること。2つの科目は、なるべくその最初の年次に履修することが望ましい。3つ以上の科目は、下の表の順序で履修することが望ましい。（順序は例であって、必ずこの順序でなければならないというものではない）

・「初級」「上級」の別がある科目は、「初級」→「上級」の順で履修することが望ましい。（「初級」を履修せず「上級」を登録することはシステム上可能であるが、現実的には履修・単位修得は困難である）

・「仏教史」「思想史」については、まず「仏教史」を履修し、次に「思想史」に進むことが望ましい。

・「神学史」については、「中国神学史」→「日本神学史」の順で履修することが望ましい。

・教職課程・資格講座を履修する者は、資格取得のために必要な科目と卒業必要科目との関係に注意して履修すること。

科目分類	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期		3年次前期		3年次後期		4年次前期		4年次後期	
	DP(1~5)	(4~8)	DP(1~5)	(4~8)	DP(1~5)	(4~8)	DP(1~5)	(4~8)	DP(1~5)	(4~8)	DP(1~5)	(4~8)	DP(1~5)	(4~8)	DP(1~5)	(4~8)
専門教育科目:64単位	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必修:40</li> <li>● 選択必修:22</li> <li>● 選択:12</li> </ul>															
専門基礎(12)	● 日英辞典(4)		● 仏教文化史(4)		● 漢語作法(4)		● 漢語作法(4)		● 漢語作法(4)		● 漢語作法(4)		● 漢語作法(4)		● 漢語作法(4)	
専門応用(32)	● インド仏教史(4)		● 中国仏教史(4)		● 日本仏教史(4)		● 中国神学史(4)		● 日本神学史(4)		● 仏教特講ⅠA(2)		● 仏教特講ⅠB(2)		● 仏教特講ⅠC(2)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
	● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)		● 中国神学史(4)	
専門演習・卒業論文(12)	● 演習Ⅰ(4)		● 演習Ⅱ(4)		● 演習Ⅲ(4)		● 演習Ⅳ(4)		● 演習Ⅴ(4)		● 演習Ⅵ(4)		● 演習Ⅶ(4)		● 演習Ⅷ(4)	
専門基礎(40)	● 仏教入門(4)		● 仏教入門(4)		● 仏教入門(4)		● 仏教入門(4)		● 仏教入門(4)		● 仏教入門(4)		● 仏教入門(4)		● 仏教入門(4)	
外国語教育(8)	英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語ⅠA&Bのいずれか1科目(1)		英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語ⅠA&Bのいずれか1科目(1)		英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語ⅠA&Bのいずれか1科目(1)		英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語ⅠA&Bのいずれか1科目(1)		英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語ⅠA&Bのいずれか1科目(1)		英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語ⅠA&Bのいずれか1科目(1)		英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語ⅠA&Bのいずれか1科目(1)		英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語ⅠA&Bのいずれか1科目(1)	
教職教育(人文・社会・自然・ライフデザイン)(4)	人文・社会・自然・ライフデザイン(4)		人文・社会・自然・ライフデザイン(4)		人文・社会・自然・ライフデザイン(4)		人文・社会・自然・ライフデザイン(4)		人文・社会・自然・ライフデザイン(4)		人文・社会・自然・ライフデザイン(4)		人文・社会・自然・ライフデザイン(4)		人文・社会・自然・ライフデザイン(4)	
卒業単位12単位	各科目区分の卒業必要単位数を超えて修得した単位															
履修モデル単位数※	20~22科目 48単位				11~14科目 40~48単位				5~8科目 20~32単位				4~6科目 20~28単位			
履修制限単位数	48単位				48単位				48単位				48単位			